

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-2-2 スポーツの振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 保健体育課長 堀江 隆典 電話番号 0852-22-5722

事務事業の名称	競技スポーツ普及強化推進事業	
目的	(1) 対象	国体や全国高校総体等の全国レベルで活躍が期待される選手
	(2) 意図	競技力の向上を図り、全国規模の大会で活躍する選手の育成・強化を行い、競技スポーツの普及・推進を図る
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 競技力の向上を図るため、国体候補選手の県外遠征、強豪チームの招請合宿、強化練習会の実施について支援する。 ジュニアの競技力向上を図るため、中学校指定競技の県外遠征、高校重点校指定競技の県外遠征や強豪校の招請合宿、オリンピック女子候補競技の県外遠征の実施について支援する。 選手個人の能力の十分な発揮、指導力の向上を図るため、小・中・高校生等を対象に栄養面や身体面でのサポートを行い、競技力のさらなる向上を図る。 地域一体となり、練習会、講習会、フェスティバル等を開催することにより、競技力の向上と普及を図るとともに競技人材を育成する。 	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	入賞種目数（成年）	年度					単位
			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
式・定義	国民体育大会（成年）において入賞した種目数	目標値		16.00	16.00	16.00	16.00	種目
		実績値	11.00	10.00	5.00	7.00		
		達成率		62.50	31.30	43.80		
式・定義	国体（少年）・全国中学校総合体育大会・全国高等学校総合体育大会等に出場した学校・選手の入賞した種目数	目標値		47.00	50.00	52.00	55.00	種目
		実績値	49.00	51.00	54.00	52.00		
		達成率		108.50	108.00	100.00		

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費（b）（千円）	148,463	158,192
うち一般財源（千円）	147,946	157,714

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・国体における入賞種目数は、H25年度より2競技2種目増え、12競技24種目となったが、天皇杯得点は555点と得点を伸ばすことができず、H25年度より19.83点の減であった。（少年がH25：17種目→H26：17種目、成年がH25：5種目→H26：7種目）
 ・少年の入賞種目数は昨年と同数であったが、2種目（H25：0種目）で優勝することができた。
 ・中学生、高校生の全国大会での入賞種目数はH25年度より2種目減の52種目であった。これは、中学生の入賞数が2種目減ったためである。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・H26年度の高校生の全国大会での入賞数はH25年度と同数であるが、H26年度末に開催された高校生の全国選抜大会では、入賞数が6種目増の14種目に増えた。このことは、H27年度の全国大会での活躍につながるものである。
 ・オリンピック女子候補競技（ラグビー）の指定校において、全国大会で優勝した。
 ・小・中・高校生等に、身体づくり、栄養、メンタルトレーニングなどのサポートを行い、スポーツに必要な知識を高めることができた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 競技人口の減少
 - 国体の天皇杯獲得点のアップ
 - 少年（中学・高校）の全体的な競技力アップ
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 地域をあげて競技への継続的なサポートが得られないため、後進が続かない。
 - 大会で最高のパフォーマンスを出すためにスポーツ医・科学等の専門的なサポート等が十分でない。
 - 指導者の不足や人事異動のため、中・高の一貫した指導体制が組みにくい。
- ③原因を解消するための「課題」
- 各競技団体が地域と一体となって競技の普及や強化を推進する必要がある。
 - トレーナーやスポーツ栄養士等の専門家による日々の身体づくりやメンタルトレーニングなどの多面的なサポートが必要である。
 - 指導者の確保と一貫した指導体制が必要である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・各競技団体が地域に根差した活動を推進し、競技人口裾野の拡大と地域の活性化を図ろうとする取り組みへの支援。
 ・スポーツの普及振興と競技力の向上を関連付けた競技スポーツの推進。
 ・スポーツトレーナーやスポーツ栄養士等のサポートスタッフの派遣による身体面・栄養面の継続的な指導。
 ・国民体育大会へ支援コーチ、トレーナーの派遣。
 ・県外遠征や県外強豪校との招請合宿による選手強化と優秀な指導者の育成。
 ・中体連、高体連、競技団体、県体協、県教育委員会が連携を取りながら、小・中・高と一貫した指導体制の確立や競技種目間での連携を図る。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）